

シンポジウムでの質疑応答

質問1（地元農家のTさん）：昔の土地改良事業は5％であり、土砂がよく流れた。最近の土地改良事業でも3％程度ある。今後の土地改良事業の方向性はどのように考えているのか？

回答（沖縄県南部農林土木事務所 川辺班長）：耕土流出防止事業として沈砂池や勾配修正、グリーンベルトなどのハード事業を行っている。5％は確かに土が流れる。5％のものは3％までは下げることで現在取り組んでいます。喜屋武あたりだと相当勾配が緩くなっている。ハウス栽培だともっと下げることが可能であり、オンデマンドつまり要望に応じてやるように取り組んでいる。要望があれば、応えていきたいので連絡をください。受益面積の違いにより実施者がことなりますが、ぜひ要望に応じていきたいと考えています。

質問2（沖縄県水産海洋研究センター 海老沢さん）：海の側のサンゴや漁業者の被害に身近に接しています。農業側これまでどのような対策をしているかよく見えなかったが、今回のシンポジウムで農業側が色んなことをやっていて心強く思いました。特に営農支援課の発表の最後にあった地域モデルがすごくいいと思った。ただ、よい計画をつくっても実際に実行することが重要と思う。その中でコーディネーターが重要な役割をすると思う。誰がするかというと農業改良普及センターがやるのが組織的にも農家や行政との繋がりでも大切だと思うし、適切だと思いました。農業改良普及センターの組織として、どういふふうな関わりを持つ予定なのか教えて欲しい。

回答（沖縄県南部農業普及センター 新崎所長）：現在、この計画を詰めている段階です。これからの調整なので、具体的にどう進めるかは市町村や農協、農家を含めながら詰めていきたいと考えています。

質問3（地元農家のKさん）：さとうきびのトラッシュを活用した敷きわらを行っているが、雑草が入りこんで困ることがある。行政で補助金を出してもらって熱処理で雑草を処理できないか？製糖工場への雑草対策の設備投資ができないでしょうか？雑草の種類としては、ヤマガラシ、ハブグサ、ハヤタ、チガヤなどがある。

回答（沖縄県南部農業普及センター 新崎所長）：ヤブガラシについては、農業研究センターが試験しながら、現場では普及センターなどが取り組んでいる段階である。ただ、いろいろやっているが課題が多く、農家へおろすまでは至っていない。もうしばらく時間が欲しい。詳細の相談については役場や農協に相談して欲しい。